

「風土」分科会では、「塩の道に培われた歴史・文化資源を活かすネットワークづくり」をテーマに、祭り街道についての報告及び重点プロジェクトの実現に向けての意見交換がなされた。

連携事業における住民と行政の役割分担や、伝統芸能の継承のあり方（積極的に地域外に広めるのか、地域内で伝統芸能の本来の形を守るのか）について意見が交わされた。また、身近な地域資源を積極的に活用すること、あるいは既に取り組んでいる活動を進めていくことが、重点プロジェクトの実現につながっていくと確認された。

コーディネーター	市民団体連携委員会	委員長	原田 敏之
アドバイザー	野外教育研究財団	理事長	羽場 睦美
行政	湖西市	副市長	宮崎 隆広
	新居町	町長	中嶋 正夫
	豊川市	市長	山脇 実
	東栄町	町長	森田 昭夫
	阿南町	町長	佐々木 暢生
	天龍村	村長	大平 巖
	大鹿村	村長	柳島 貞康
経済	新城市商工会	会長	本多 克弘
住民	三遠南信文化交流講座	講師	松田 不秋
	三遠地方民俗と歴史研究会	副会長	仲井 政弘
	祭り街道の会	事務局	伊東 直幸

(敬称略)

### ■ 第16回三遠南信サミット 2009 in 遠州における「風土」分科会の議論について

#### コーディネーター

まず、前回2月に行われた浜松のサミットにおける議論について一度確認をし、それを踏まえた上で進めていきたい。事務局に説明をお願いしたい。

#### 事務局

第16回三遠南信サミット2009 in 遠州での分科会においては、三遠南信地域は広く、歴史や風土の違いも存在していることから、交流・連携することの必然性や必要性の認識をすべきである。次に、三遠南信地域の自然、伝統文化等の厚みのある地域資源を誰がプロデュースする

かが問題である。最後に、具体的な議論は進んでおり、その先に踏み出す仕組みづくりと議論の場を増やすことが必要である、という議論がなされた。

#### コーディネーター

それでは、最初に祭り街道の会の伊東さんから、祭り街道の事業の内容等についてご報告いただきたい。

### ■ 祭り街道について

#### 祭り街道の会事務局

私たちの三遠南信地域では、秋葉信仰の秋葉街道、元善光寺参りへの遠州街道、中山間地域と平野を結び、塩を始め様々な産物を運ぶ、生

活を支える街道があった。街道を行き交う人々によって、この地域に様々な祭り文化が運ばれた。



阿南町新野に伝わる新野の雪まつりは、伊豆から来た領主によって始められ、また、新野の盆踊りは、新野の瑞光院の開山式のときに今の東栄町、三州振草下田から人々が来て、皆様に踊ってもらったのが始まりと言われている。和合の念仏踊りも遠州の大念仏の影響を受け、この地域ならではの祭り文化が育ってきた。

しかし、明治の時代になって県境の壁に分断をされた。近年は153号沿いには中央高速道路ができ、152号沿いには近い将来、三遠南信自動車道が通ることになっているが、151号が取り残されていくような気がしていた。

そこで、151号を「(愛称) 祭り街道」と命名し、21世紀のふるさとづくりに取り組もうと、まず仲間づくりをスタートした。

長野放送の広報番組「祭り街道に行く」や、中部建設局のプロジェクト情報誌で、私たちの活動を取り上げていただき、広くアピールをしていった。平成11年には、151号沿線の盆踊りの4団体を招いて、祭り街道盆踊りフェスティバルを開催をすることになり、このイベントを契機に東栄町の皆様と交流が始まった。

この交流の中で、祭りの衰退というものは地域の衰退につながるため、何とか祭り文化を育てていこうという話になった。行政にも働きかけて、この祭り街道を広く理解していただくため、東栄町の町長さんとも懇談した。

祭り街道の看板は、東栄町や豊根村にも立てていただき、祭り街道と一緒に盛り上げていた

だいている。そして今年10周年の祭り街道フェスティバルを開催することになった。

「私たちの三遠南信地域を天上の高いところから見渡すと、緑の山に囲まれたそれぞれの地域に、素晴らしい祭り文化が光輝いています」という三遠南信星座論がある。私たちは、祭り街道銀河都市記念という言葉をも天上へ設置しようということで、2007年、宇宙衛星かぐやに祭り街道銀河都市記念を印字して登載し、打ち上げていただいた。こうした取り組みを通して、151号を祭り街道として皆様に親しんでいただき、さらに点から線へ、線から面へと、三遠南信地域全体が祭り文化圏としてアピールできるところになっていけば良いと考えている。

## ■ 「風土」に関する連携事業の活動状況について

### コーディネーター

ここからご意見等を承ってまいりたいが、午前中の住民セッションではどのようなお話が出たのか。

### 三遠南信文化交流講座講師

三遠南信地域は、歴史、文化の宝庫であるが、次第に伝承文化を支える人が減少しているという意見や、歴史や文化が本当に観光資源になっているかという意見があった。それをどうするかという問題は、十分な議論を尽くすまでには至らなかったが、やはり自分たちが存続の努力をしていかなければいけないとのことだった。

### コーディネーター

地域の文化を、広域的な交流、連携によって展開している事例があったらご紹介いただきたい。

### 湖西市副市長

湖西市にはふるさと農村歌舞伎がある。大鹿村を始め4市1町1村と8、9の保存会により、三遠南信ふるさと歌舞伎交流大会を平成6年から毎年開催しており、交流をさせていただいている。

### 新居町長

新居町は湖西市と来年3月23日に合併する。明治22年、町制施行から120年の歴史を持つ町である。歴史、文化としては、日本でただ一つ残る関所がある。これは徳川家康が三方原で武田信玄に負けて逃げるときに、新居の領主が徳川家康を助けたことから始まっている。夏には120年を記念して大納涼祭を開催したが、住民参加が一番大事だと感じた。手筒花火は、豊橋、豊川とともに有名で、今年は全国伝統花火大会を開催した。全国花火大会へは豊橋、豊川、蒲郡、旧清内路からも出ていただいた。

### 三遠地方民俗と歴史研究会副会長

三遠地方民俗と歴史研究会は年に1、2回地域の民俗芸能を見に行く。3月には西浦田楽を見学する。水窪の西浦田楽は演出がすばらしい。民俗芸能は、実際に見て初めて良さがわかるものである。実際に見ていただくことが各市町村の間の交流につながる。

### 大鹿村長

先ほど話が合ったように、第16回の三遠南信歌舞伎交流を、今年大鹿村で開催した。課題は、新たな広がりが点である。

後継者不足がどこも悩みのようである。大鹿村では、30年前から中学生が、3、4年前からは小学生が歌舞伎をやっており、ここ何年かはUターンの人に取り組んでくれており、非常に喜んでいる。

文化をつないでいくには、行政や経済界からのある程度のバックアップが必要である。特に歌舞伎の場合は衣装やかつらに大変費用がかかる。豊橋市さんや湖西市さんは、文化庁の補助金をもらって続けている。

### 東栄町長

先ほど伊東さんから祭り街道のご報告をいただいたが、もともとは新野の方から東栄町で盆踊りをやっている方々に話があり、交流が始まったようである。東栄町では、実は盆踊りが

非常に廃れていた状態であったが、祭り街道の会の方たちとの交流により復活した。

花祭りは東栄町だけではなく、隣の設楽町にも、浜松市にもある。新野には霜月祭りもあるが、名前こそ違いますがルーツは同じようなもので、もともと非常に交流が盛んであった地域ではないかと思う。

民間の方々が阿南町の皆様方とおつき合いを始めてから、祭りだけではなく、新しい商品を生み出す動きも出てきている。

### 天龍村長

天龍村では、坂部の冬祭りがあり、村内3つの祭りを一括して天龍霜月神楽として国の無形文化財の指定をいただいている。この祭りは、もともと信仰の中で一年の豊穰を神に感謝し行われてきたものであり、開催すべき時期、時間帯に、その場所で行うというのが本来の姿である。

ところが時代が変遷し、大勢の人に見ていただくことによって後継者も気持ちに張りが出るということもあつてか、全然違う時期に、他の地域へ行って、ムードも全然違う中で祭りを行うということが広まってきた。私は、本来の姿と違うのではないかと、深いすに座って劇場で同じ舞を見ても感動はないのではないかと、いうことを申し上げてきた。

文化財の伝承にはどうしても費用がかかる。その意味で「この地域資源を誰がプロデュースするかが問題である」というところに、私は非常に興味を持っている。金と後継者がいないと伝統がなかなか継承できない状況であるが、本来の姿を忘れてはならない。

### 阿南町長

祭り街道の10周年として、今年の9月20日、阿南町の新野道の駅で東栄町、豊根村の花祭りが同時に開催され、私も感銘を受けた。飯田市から豊橋市までの全線で参加していただき、国道151号全線が祭り街道となるようにしたい。できることならば、祭り街道サミットの開催という夢を申し上げたい。

ただ、こういう伝統芸能は、高齢化により伝承が非常に厳しい状況にある。働く場所としての農業、林業というものがあってこそ初めて伝承できるものである。この度の政権交代により、農村整備等については非常に厳しい意見がある。当サミットからも国へ訴えていくという課題があると思う。

#### 豊川市長

豊川市は来年2月1日に小坂井町と合併する。三度の合併を経て宝飯郡が一体となるという状況である。合併を記念して、音羽町の東海道赤坂宿で、地元の住民の方の発案により小屋がけを復興した。そこで旧宝飯郡一宮町の金沢歌舞伎を演じていただいた。一昨年は、新城の子供歌舞伎も来ていただいて、大分好評であった。

この地域は、戦国時代は、東は今川、西は徳川、北は武田という大勢力の狭間で、厳しい情勢であったこともあり、多くの城跡が残っている。これを利用し戦国時代を偲ぶような交流連携ができればと思う。

また、豊川稲荷はいなり寿司の発祥の地であり、現在、観光協会が「豊川市を盛り上げ隊」という会を結成し、いなり寿司のブランド化に取り組んでいる。いなり寿司のほか、それぞれの地域での五平餅があるので、そういう物産展なども良いと思う。

#### 新城市商工会会長

新城市には、新東名のインターチェンジやパーキングエリアができ、また三遠南信自動車道のインターチェンジもできるということで飯田、奥三河の窓口となる。

その中で、かつて交易の拠点として栄えた「山湊馬浪」としての新城を復活させるため、軽トラックを使った市を毎月開催したいと考えている。60、70台の軽トラックを道路の真ん中に停めて、この地域の物産を売るといったものである。是非参加していただきたい。

また、クラシックカーラリーの全国大会を開催する。富士スピードウェイや鈴鹿では2,000

人か3,000人の来場者であるが、昨年新城ラリーの全国大会では、1万8,000人の方に来ていただいた。新城をラリーのメッカにしたいと思っている。

#### コーディネーター

これまでのご発言を受けて、アドバイザーの羽場様にご意見をいただきたい。

#### アドバイザー

4つの視点にまとめてみたい。

1つ目は、住民と行政の役割分担である。風土というものは、いずれのお話からも住民が主体であると感じたが、住民の作り出した風土を育て、保護し、育成するという行政の役割も大きい。住民と行政が連携するがポイントである。

2つ目は、「積極的に交流すること」と「本来の風土を守ること」という2つの意見についてである。交流という点では、旧清内路村でオリンピックのときに花火を披露したが、それは江戸時代に豊川、新居からもたらされたものである。風土を守るという点では、ヨーロッパのエコミュージアムでは現地において守ることが重要とされている。積極的に交流するか、風土を守るかは、それぞれの文化により判断が様々であり、両者はともに大切な意見である。

3つ目は、後継者確保と限界集落、消滅集落の問題である。葬式や祭りができるかは、その地域が元気であるかのバロメーターであり、行政、経済の仕組みと合わせて解決しなければならない問題である。学生を祭りに招き入れる取り組みや、「週末清内路人」という地域外の人に参加してもらった取り組みは参考になる。交流によって祭りを守る取り組みが生まれると良い。

最後に、風土と経済の関係である。そもそもお祭りは経済的効果を期待すべきものではない。フランスでは、お金目立てにエコミュージアムを行った結果、成功しなかった。まずこの地域の風土を残していくという発想が第一にあるべきである。

## ■ 重点プロジェクトの実現に向けての意見交換

### コーディネーター

後半は、風土の重点のプロジェクトをいかに進めるかについて意見をいただきたい。

### 三遠地方民俗と歴史研究会副会長

伊那街道や別所街道をかつて行き交った信州でいう中馬、三河でいう馬稼ぎの違いを示し、与良木峠の昔の伊那街道を利用した取り組みをするのはどうか。また合併により使わなくなった市役所等の建物をエコミュージアムとして利用すると面白いものができると思うので提案させていただく。

### 東栄町長

花祭りをユネスコの無形文化遺産リストに登録する取り組みを愛知県としている。東栄町だけでなく、他の地区の花祭りすべてを登録しようと北設楽郡で取り組んでいる。この三遠南信地域には国指定無形文化財が多くあるので、これを祭り街道と連携させるのが良い。霜月祭りも登録の対象になる可能性がある。

### 新居町長

大型商業施設の進出に危機感を抱いている。新居葬祭は、材料物品をすべて町内の商店から調達するという、全国にほとんど例のない取り組みをしており、テレビ朝日に取り上げられ、来週19日に放映される予定である。

伝統である花火については、月1回の土曜日に作り方を子供たちに教えて技術の承継に努めている。また、NPO を立ち上げ、観光客を無料で案内する取り組みをしているところである。新居町は木曾福島と姉妹都市提携をしており、それぞれの町のイベントでは、互いに相手の町の物産を販売し交流している。オーストラリアのジェラルトンとも同様の取り組みをしている。

### 大鹿村長

伊那市長谷の団体から始まった秋葉街道を復

活させようという活動により、北は分杭峠から南は地蔵峠まで歩道が改修された。

これもまた伊那市から始まった活動だが、権兵衛峠から国道152号、秋葉街道まで伊那谷を横断する形で日本風景街道の登録をした。次いで大鹿村の中の国道152号も登録した。このような動きが三遠南信でつながっていくと良いと思う。

### 阿南町長

重点プロジェクト4番目のアンテナショップに関連するが、静岡においては夏場の野菜が不足することから、阿南町の夏野菜をしずてつストア、遠鉄ストアといった静岡県内のスーパーで販売する取り組みをしている。

また、ここにいらっしゃる松田先生の提案を受け、浜松で多く生産されているほおづきを長野県南部地域で栽培する取り組みが始まっている。

### 新城市商工会会長

重点プロジェクト2番目の鉄道の有効活用に関してだが、飯田線は、天竜峡、伊那に至るまで素晴らしい景色があるにもかかわらず利用者が少ない。観光資源としては最高でありどうか活用すべきである。

また、外国人観光客の誘致に関しては、鳳来、奥三河に訪れた外国人は、川の水がきれいだと非常に喜んでいただいている。

### コーディネーター

ここでアドバイザーの羽場様にコメントをいただきたい。

### アドバイザー

飯田市も台湾、中国など海外への情報発信に挑戦しているので報告したい。

この地域には、素晴らしい人々、自然、文化があるがそれだけでは人は来てくれない。楽しく交流してお金も落とさせていただくよう、統一したイメージをうまく作り出し、地域資源を日本中、世界中の人に知っていただくことが大切

である。皆様が努力されていることを確認させていただいた。

#### コーディネーター

取りまとめをしてまいりたい。

前半は、住民と行政が連携し、それぞれの力が効果的に発揮されることが大切であるとの指摘をいただいた。積極的な連携で課題を乗り越えることができる一方で、その風土の本来の姿を守ることも重要であることを踏まえながら、文化を継承していくことが重要である。資金調達では厳しい面があり工夫をしなければならない。

後半は、重点プロジェクトについてすでに具体的に取り組んでいるという意見を皆様からいただいたように思う。伊那街道や秋葉街道を肉付けすることで魅力あるものにする。花祭りの世界遺産登録は、海外への観光情報発信につながる。

アンテナショップについては、それぞれの町ができるところから取り組んでおり、より全体的な取り組みに広げることができるというお話をいただいた。

この地域は、世界的にもすばらしい地域資源があることを認識し、自信をもって取り組んでいきたい。

それではこれで終わりとさせていただく。どうもご協力ありがとうございました。